

コスモス 9月号

第72巻 第9号

◆宮柽ニカレンダー(66) 九月の歌

いろ黒き蟻あつまりて落蟬おちぜみを晩夏の庭に努力
して運ぶ 『晩夏』

昭和24年に詠まれた歌で、小題「晩夏」八首目の一首目にある。落蟬にくろぐろと蟻が群がり大きな蟬を解体し、日盛りの中を一匹一匹が懸命に巣へと運んでいる。その様子がありありと見える。特に「努力して運ぶ」と詠んだこの時の作者の心のありようを思う。一心に努力している蟻の姿に共感し、自己を重ねたのだろう。読む側も勇気づけられる。また、どこかメルヘン的な要素も感じ取れ、よしよ、よしよと蟻の掛け声が聞こえてくるように、親しくて愛誦性がある。

(藤岡成子)